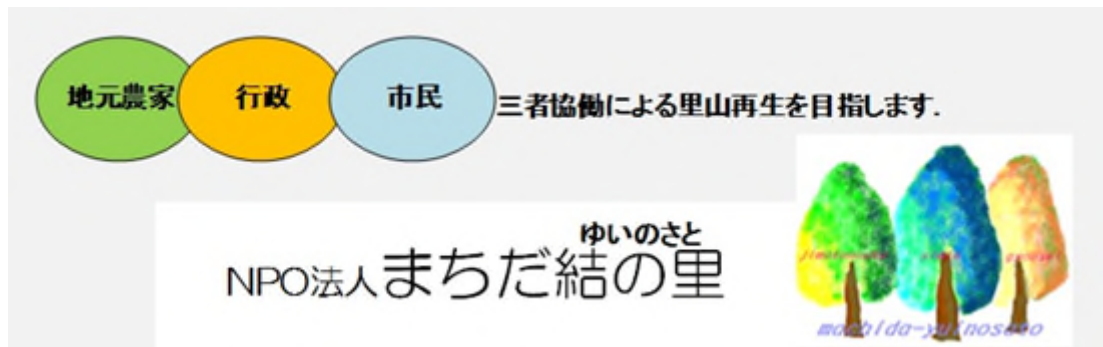


ならばい・たより



3月からの活動、事象を時系列で記載していきます。

1) 3月17(土) 炭焼き、シラカシの伐採

炭焼きの作業開始時間を一時間ほど早め、窯の温度管理の負担を軽減、炭焼き(木炭)の実施
田圃の北側斜面の上部のシラカシの伐採。ホダ木への水やり

小山田緑地主催のメカイ講習の支援活動

追加作業 伐採した真竹の幹を利用して<暗渠>の材料のつくりの準備

→真竹の伐採幹を炭小屋に移動 (☆切通し手前の暗渠の補修用)



小山田緑地主催のメカイ講習 写真 中尾博



写真 福原





2) 3月18(日) 炭焼き火止め

前日の炭焼き開始から煙突出口の温度を測定し火止めの時期を確認し火止めを行う。
その間、真竹の幹を利用して＜暗渠＞の材料の作成



3) 3月21(水) きのこのメンテナンス

今年 駒打ちしたホダ木のカバーを外し、雨を吸収しやすくした。
奥の昨年以前のホダ木の覆いを外し、同様に雨が十分かかるようにした。
作業時間 1時間 →手が凍えて、指先が動かなくなり、作業終了



雪 手が凍えてしまいます。

4) 3月24(土) 畔の修復

畔の修復、小田急用地の木の伐採、通路の暗渠用材料(竹)の準備、ほだ場整備、花暦調査、孟宗竹林の調査



写真 福原



5) 3月25(日) 水棲動物調査



ミズムシの仲間



ドジョウ

ニホンアカガエル



カワトンボのヤゴ 写真 穴水

6) 3月28(水) 伐採木の整理・処理

伐採木の整理・処理 (小田急用地)、畔の修復、通路 (切通下) の暗渠設置の準備、ほだ木への散水、花暦調査、サツマイモの温床への植え付け



写真 福原

7) 3月31(土) 種もみの処理、

種もみの処理、伐採の整理(小田急用地)、畔の修復、通路(切通下)の暗渠設置、里山交流館展示の撤収



写真 福原

8) 4月4(水) 排水暗渠の工事

排水暗渠の工事、東谷戸の田んぼの畔の修復、ほだ木の本伏せ、田んぼ(奈良ばい)の畔の修復、伐採木の枝葉の整理・処分、花暦調査、水場の修復



写真 福原

9) 4月7(土) 畦周り補修、伐採木整理、筍イベント準備

18年度里山体験応募者来訪日 市の担当者も同席→谷戸の案内、畦の補修の継続と水路の堰の補修 伐採木の処理の継続、孟宗竹林のチェックとイベント実施エリアの囲い込み(テープ使用)、通路のタケノコの除去実施。残すべき筍の選別。マーキング用の篠竹の準備





←永井さん作



10) 4月8(日)植物観察会 岡山さんの報告書より

☆谷戸入口民家にシロバナオオイヌノフグリ開花

☆事務所脇の田んぼにコオニタビラコ開花

☆ホタルカズラが開花中 株が衰退している →



☆谷戸に向かう通路にシバヤナギ、サルトリイバラ、ミツバアケビが開花中

☆第二梅林登り口にヒメハギが開花 スミレ開花 →



☆イカリソウ開花

☆第二梅林にはキジムシロが群落を作っている

☆トトキ谷戸奥サイハイラン、エビネが蕾を持ちタマノカンアオイ開花中
午後

☆ほだ場上側のエビネは沢山の蕾を付け色づいている

☆開花中のチゴユリの大群落 →



☆杉林奥 イチリンソウ群落を作り開花 →



☆ウラシマソウ開花

☆杉林奥の空き地はクサイチゴの大群落

☆富士見台フデリンドウ保全地にシロバナキランソウ、アリアケスミレ開花 →



☆萌芽更新林のエビネも蕾をつけている ジュウニヒトエ、ニオイタチツボスミレ多数

☆栗林奥キンラン開花中 未開花株多数

12名参加で賑やかな観察会でした。久しぶりに桜井さんが参加してくださいました。
奈良ばいは一週間の間にすっかり新緑に変わり、キンランまで咲きだし季節は先に先
にと駆け足で進んでいます。



一日一緒に歩き、奈良ばいの植物たちを愛しんでくれる仲間が増えたことがとても嬉しい
観察会でした。 参加された皆さんお疲れ様でした。

11) 4月11(水) 種もみまき

種もみまき、田んぼの畔の修復、竹のこほりイベント用マーキング支柱の番号付け
写真のモグラは死んでいました。





写真 福原 6 枚

1 2) 4 月 14 (土) 陸苗代水まき

陸苗代水まき他、畔の修復、筍の生育調査、炭焼小屋の整理



1 3) 4 月 18 (水) タケノコの生育状況の確認

2 2 日のタケノコ掘り体験イベントに備えタケノコの生育状況の確認

降り続いていた雨が強くなり作業を中止、クラブハウスに戻る



1 4) 4 月 21 (土) 田起こし

伐採木の整理、田起こし (奈良ばい、東谷戸)



強力な助っ人





1 5) 4月22(日) 小山田緑地散策&タケノコ掘り体験

参加者14家族 大人21名 子供19名 計40名



1 6) 4月25(水) ホームページ更新の打合せ

(雨も小降りになってきたが、参加者も少なく午後の作業は中止)



孟宗竹林の様子



エビネ



キンラン



カマツカ

1 7) 4月28(土) 田起こし

田起こし、伐採木の移動、タケノコ掘り体験イベントの後処理

本日の作業は午前中で終了、その後、新入会員の歓迎会

本年度の市役所イベントスタジオの展示期間：12月17日(月)～12月28日(金)

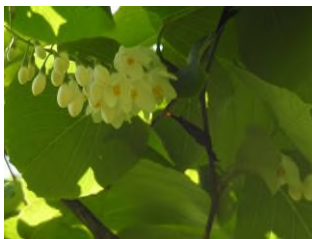
篠原さん(東大院生)の研究フィールドにマーキングを行う

タケノコ掘り体験イベントに参加の沖濱さん親子が体験入会で参加



カワトンボ

この日帰り中央通路の植栽木の花が咲いていた、その名前が判明「ハクウンボク」でした。



こんな花でした。 下の写真は福原さん



18) 4月30(月) 緊急作業

パオパオを外し、陸苗の上に掛かっている土をほぐすなどして、状況回復に努める。(3列実施) パオパオを戻す。



19) 5月2(水) 田起こし

田起こし(東谷戸)、野菜苗の植え付け、花暦



写真福原



20) 5月5(土) 田起こし(東谷戸)

田起こし(東谷戸)、刈った草の整理、畔の修復

上から4枚の田起こしは終了、上から5枚目の田起こしが終了、6枚目に取り掛かるが大半が残る
道路側の5枚の田んぼは2枚が終了



タツナミソウ



コケリンドウ



写真 福原

21) 5月9(水)「小野路町奈良ばい谷戸管理柵修繕事業委託」について

炭焼き小屋周辺の草刈り及び刈った草の整理(一部は堆肥舎に運ぶ)、田んぼの水回りの調整(東谷戸)
水路の水回りの調整等を行う



22) 5月12(土) 田起こし、他

田起こし、畔の修復(東谷戸)、田起こし(奈良ばい)、ツルニンジンの支柱立て、水口の整備(東谷戸)
精舎児童学園園児が10時過ぎに来訪(東谷戸)、田んぼ周りの散策&田起こしを体験し、11時30分
頃に帰途につく(園児:5名、引率:3名(職員1、ボランティア2))



ウスバキトンボの羽化



シュレーゲルアオガエルの卵

写真 福原

2 3) 5月14(月) 柵の交換作業風景



2 4) 5月16(水) 田起こし(奈良ばい・トトキ谷戸)

田起こし(奈良ばい・トトキ谷戸)、粗搔き(東谷戸)、里芋の植え付け、花暦



ムカゴサイシンの花 写真福原

25) 5月10(木) 柵の交換作業風景



26) 5月19(土) 田起こし(奈良ばい・トトキ谷戸)

田起こし(トトキ谷戸)、粗搔き(東谷戸)、畔&田んぼ周辺の草刈り(奈良ばい)、刈り取った草の整理、伐採木の整理



写真 中尾博



写真荒井

キアゲハ



トビモンオオエダシャク 稲の苗



コアジサイ 写真菊池

27) 5月22(火) 柵の交換作業風景



シマアメンボ

28) 5月23(水) 田起こし、畔塗り、田んぼ水路の整備、野菜の植え付け、植物保護

畔塗り 樋渡さんを講師に本谷戸の畔塗り等

田んぼ水路の整備 水路を整備して田んぼに水を引き込む

野菜の植え付け カボチャの苗の定植(栗林下の斜面、13本)、トウガラシの苗の定植(第三梅林のお

茶の木の脇)



29) 5月26(土)代掻き(東谷戸)

福原さんより案内の有った撮影(主演:福原さん、エキストラ:会員)が本日举行されました。市役所より、結の里が提出すべき報告書(3件)の提出が遅れているとの注意があり、今月中の提出を求められているとのこと。

篠原さん(東大院生)が本日も奈良ばいを中心にフィールドワークを行う(岡山さんが案内兼付き添い)昨日(25日)にテレビ東京が来訪、ネムノキ広場周辺を散策する様子を撮影



名残のレンリソウ

クロアゲハ

写真菊池

30) 5月30(水)くろつけ

くろつけ、水路の整備、花暦調査





3 1) 6月1(金) 苗取り



通常の苗と根曲がり苗

3 2) 6月2(土) 田植え

10時頃に精舎児童学園園児が来訪、新井さん・岸さんの指導で道路側の一番上の小さい田んぼの田植えを体験、11時30分頃の帰途につく



写真 福原



写真 荒井

3 3) 6月6(水) 代掻き

麦刈り、植物調査、野菜の支柱立て

マウンテンバイク友の会の方が2名参加、あらかき作業をされました。角折さん(岡山さん友人)が入会(賛助会員)されました。東谷戸の田んぼの水の調整は雨の様子を見ながら行う。





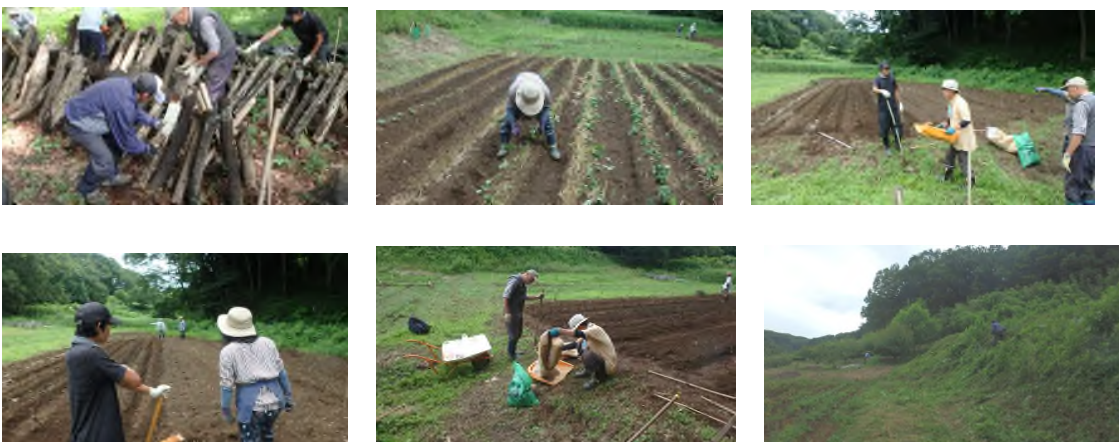
3 4) 6月9(土) 代掻き

代掻き、小麦刈り、サツマイモの苗の植え付け、陸苗の不織布外し、大豆用畑の整備



3 5) 6月13(水) 大豆の種まき

大豆・黒豆の種まき、田んぼ(一部)の代掻き、第三梅林の草刈り、第三梅林の梅の収穫、シイタケ原木の天地返し、花暦調査



36) 6月15(金) 苗取り



たまむし

写真 福原

37) 『New Wild 外来種は本当に悪者か』という本について

『外来種は本当に悪者か』発行草思社、著者 フレッド・ピアス 訳 藤井留美 解説 岸由二
2016年7月20日発行 1800円 『the New Wild』

何気なく買ってみたのですが、読むのにちょっと苦勞した本です。

現代ならではの新しい自然の姿という意味で「新しい野生」というタイトルがついている。

冒頭から、21世紀はニュー・ワイルドの時代だ、と謳ってきている。

この本では、世界各地の事例を取り上げて今の生態系保護？過去の生態系に戻すことについて成功、失敗例を挙げて記載している。

まず、一部一章で、絶海の孤島グリーンマウンテンについて記載されている。

場所はアセンション島、ブラジルとアフリカの中間地点のイギリス領、500年前にポルトガルの艦隊が発見した島で、発見当時は「丸裸な醜惡な姿」という表現で、まったく植物が生えていなかったようです。

今は200年間に持ち込まれた植物に覆われている島、19世紀から異議率の植物学者が適当に選びイギリス海軍が運んできたもの、例「バミューダバクシン」「南アフリカ原産のイチイ」「ペルシャハシドイ」「ブラジル原産のグアバ」「中国原産のリョウキョウ」「ニュージーランド原産のアマ」「マデイラ島のタロイモ」「ヨーロッパ原産のブラックベリー」「日本原産のサクラ」山頂にはアジア原産の竹がうっそうと茂っている、生態系など考えていない導入であり、人が過ごしやすように持ち込んだものと考えられる。植物がこのような状況なので動物は推して知るべし、最大の厄介動物はネズミとネコのようにでした、このような話がほかに4章分載せられている。

第二部では四章にわたり今までの外来種駆除についての失敗例と人が導入した外来種に対する対応、そこで今まで言われていた「手つかずの自然」というものがこの世界に存在するのか、そこから出てきた

本当に外来種は生態系を荒らしているのだろうかという事に迫っている。

第三部ニュー・ワイルドでは都市の荒廃地のその後、その荒廃地に現れた生態系、今危機にさらされている種がその荒廃地で繁栄している、都市に住み着いてきている。

この本には載っていなかったが、NHK の「プラネットアース」で紹介されたヒョウが大都会（ムンバイ）で家畜の子豚を狙って毎日徘徊する、ニューヨークでのハヤブサの生活、エチオピア ハラールの街中を夜うろつくブチハイエナが取材されていた。

町田市近辺で考えられるのは最近増えているカワセミ、私の勝手な考えですが、このカワセミ巢を作る場所が郊外になくなってきて崖工事での水抜き穴を巢に利用可能と知って都会に出てきたのではないだろうか、勝手な考えです。

ジュラシックパークなどという映画は最高に原始の手つかずの自然に戻した状態と考えられる。

もっと前だと氷河期に入ってしまう。

この本を読んでいると今いる外来種は本当に根付くのか、新しい生態系ができてきているのか、新しい進化をもたらしているのか？いろいろ考えさせてくれる、考えてみると私たち人類もアフリカを原点とした外来種と言える。

以上

田嶋